

日本オリエント学会編

日本オリエント学会創立二十五周年記念

オリエント学論集

刀水書房

刊行の辞	板倉三勝正	I
序文	三笠宮崇仁	V
例言		XII

ミケーネ難民と海の民	新井桂子	三
伝ギラーン州出土の淡褐色磨研注口土器について	石黒孝次郎	三
『好字の子』のテキストの復原とその背景	伊藤義教	壹
テヘランの都市化に関する一考察	井上英二	五
古代の色彩とその意義	井本英一	六
ウル第三王朝時代の質量標準	岩田重雄	八
エアンナ地区神殿の変遷について	岡田明子	九
——ウルク期〜ジエムデット・ナスル期を中心に——	小川英雄	一五
ミトラス教信者組織の女性的要素		
前三千年紀のペルシア湾貿易		

——メソポタミア＝マガン貿易を中心として——	萩野博	二六
水になる者——古代イランの「水界」の意味——	奥西峻介	二七
モンゴル西征の一問題	勝藤猛	二八
サツラージュによるスーフィーの理想的生活について	鎌田繁	二八
図象象徴としての万字		
——古代オリエントにおける図象象徴解読への試論——	国谷誠朗	二〇一
ペルシア詩人ジャーミーについて	黒柳恒男	二九
エヌマ・エリシュ考	後藤光一郎	三〇
バビロン第一王朝期書簡粘土板およびその楔形文字の寸法について	小林義尚	三五
タイベ・オアシスのカナート	小堀巖	三七
アッパース朝中期の物価に関する覚書		
——小麦の平衡価格について——	佐藤圭四郎	三六
ラス・シヤムラ タブレット RS 20. 16 におけるウガリトとカデシュ	柴山栄	三〇一
景教碑文・遺経の漢字表記にみえる塞外的要素について	神直道	三三
イランにおける水車・風車製粉の意義	末尾至行	三六
サボリオスの乱について	杉村貞臣	三六

パウロ派異端とマニ教……………須永梅尾 三二

アンティオコス四世の都市政策——最近の研究動向について……………田中穂積 三九

メソポタミアにおける神々の死——アヌ殺害の場合……………月本昭男 四七

初期キリスト教思想と比喩的表現……………土屋 博 四九

サンス大聖堂所蔵織物に見られるオリエント要素……………道明 三保子 四九

古代エジプト語における「妻」の類義語について……………富村 傳 四九

エデンの園の二つの樹……………中沢 洽 樹 四七

ガザリーの哲学批判……………中村 廣治郎 五七

スーサ出土の彩釉煉瓦断片にみられる……………深井 晋 司 五七

彩釉の技法とその化学分析について……………堀内 勝 五三

現存する二種の『ユーラン』の相違について——al-Faiḥāh (開扉の章)  
に見られる *Qirā'ah* (ユーラン読誦) 学派の相違を中心に……………前嶋 信 次 五三

タバリスターンの拜火教諸国と唐朝……………前田 徹 六一

ウル第三王朝時代の労働集団について——ウンマ都市の耕作集団……………松田 伊 作 五九

詩篇一五四、一五五……………三橋 富治男 六七

Palanga (Palanka) 考……………

イラン国ギラン州デーラマンと中国出土の三足土器について

——主として鼎形、鬲形土器を中心に……………三宅 俊 成 六三

中世上エジプトのウラマー共同体……………湯川 武 六九

シュメール語の動詞における複数表現について……………吉川 守 六九

ニカの乱——青党・緑党、元老院議員と反対皇帝……………和田 廣 七二

英文目次